

1 主屋取合部三階 垂木打ち

取合部三階の小屋組や天井の修理も終わり、組み上げに取りかかった。

雨漏りや虫害によって垂木や隅木は破損していたが、ていねいな繕いによって、垂木を1本取り替えた以外は、主要部材はすべて再用することができた。

写真は垂木を打ち終え、広小舞を取り付けた状況。化粧裏板、野小舞を打ち付け、土居葺に取りかかる。



2 主屋大広間部 土庇柱の柱立

大広間は南面を除き、野垂木の通りを直し、野小舞を打ち終え、あとは土居葺を待つばかりとなった。軒先も決まったので、取り外した土庇柱をいよいよ立てることとした。

土庇柱は雑木の黒木柱で東面と北面に延べ4本立つ。通常とは逆に柱を桁に合わせて立て、自然石の礎石を柱下面に引き付けて礎石高さを合わせた。礎石下に石を飼い込み、コンクリートで巻いて固定する。



3 主屋土間台所部 西妻の補強

土間台所部の西妻は、高窓の敷居から雨漏りして、敷居下の胴差を腐らせていた。今回の修理では、解体せずに胴差を矧木修理したため、横風に対する胴差の強度低下が予想された。

このため、建築研究協会のアドバイスを受け、縦板張りによって見え隠れとなる胴差西側面10mにわたって、ボックス状に加工したステンレス鋼板を縫いつけ、補強することとした。写真は取り付け完了状況。

